

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501874		
法人名	(株)リビングプラットフォーム		
事業所名	ライブラリ中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目3-15 ル・パルク中の島2階		
自己評価作成日	平成29年11月23日	評価結果市町村受理日	平成30年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームライブラリ中の島は閑静な住宅街にあり、周りは公園があり、四季折々の季節感を感じることができます。公園は散歩でよく行く場所です。季節の花を見て入居者様は喜ばれています。穏やかに、楽しく過ごせるように、家庭的な雰囲気を大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=0190501874-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=0190501874-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年12月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、豊平区中の島の市街地に位置し、閑静な住宅街にある5階建てビルの2階にある1ユニットのグループホームである。以前は学生会館を転用したもので、3階からは他の有料老人ホームとなっており、近くには精進川湖畔公園があり、四季折々の自然に触れられる環境である。法人は、札幌を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム、居宅介護支援などの介護事業、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がい者サービス事業、保育事業など広く事業展開しているグループ会社で、培った経験を運営に活かしている。事業所の理念は「和楽」として、和やかに穏やかに楽しく過ごすことであり、利用者も日中の殆どはリビングで寛いでおり、穏やかに時が過ぎている暮らしで、利用者も職員も笑顔で明るくアットホームな感じである。避難訓練は地域の方の協力により、ビル合同で実施しており、駐車場で行うバーベキューや焼きとりなどは、ビル内の有料老人ホームと一緒にやっている。地域の一員としての認知症高齢者の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念およびホーム理念は居間に掲げ確認することができる。毎日の朝礼で職員が唱和を行っている。	理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知しており、職員は、毎日の朝礼で唱和して共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に加入し、町内の行事(ごみ広い、運動会、夏祭りなど)に参加している。	町内会に加入し、町内のゴミ拾いや運動会、夏祭りなどの行事に参加している。また、事業所主催の夏祭りやクリスマス会には地域の方も参加しており、同じビルの有料老人ホームと一緒に駐車場でバーベキューや焼きとりなど共に楽しみな交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事や運営推進会議に参加して頂き、入居者様の暮らしぶりを見ていただき、認知症の方の理解につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様、地域住民、民生委員地域包括センター職員の参加を受け、身体拘束廃止や虐待などの取り組みについて報告、話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や町内会役員、民生委員などが参加して、定期的に開催し、運営状況の報告や認知症についての勉強会、意見交換などを行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域の方や地域包括支援センター担当者などが参加して定期的に開催しているが、最も重要な家族の参加が見られない為、家族も参加して意見交換ができるように工夫することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや運営推進会議を通し、協力できる関係を築き、中学校区の子供110番の家の登録を行っている。	運営推進会議で地域包括支援センター担当者が参加しており、意見交換を行っている。また、豊平区保護課とは定期的に状況報告など行っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束委員会があり、委員会を中心として、外部の研修を受講したり内部研修を行って会議の中で話し合いを行う。夜間帯以外の施錠は行っていない。	身体拘束をしないケアについては、事業所内に身体拘束廃止委員会があり、指針やマニュアルを整備して、外部研修会への参加や内部研修の企画開催など定期的に年2回実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分たちのかかわり方や言葉が虐待、暴力になっていないか注意を払いサービス提供のあり方を考え会議などで話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいないため理解していません。今後内部研修に取り入れていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面を見ながら、ご家族様、ご本人様に口頭で説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口に面会票およびご意見箱を設置。運営推進会議でも意見を出せる場を作っている。	ホーム便りは、利用者毎の生活状況も記入し、2ヶ月に1度発行し、家族へ報告している。玄関に意見箱を設置し、いつでも意見を聞く機会を設けているが、家族の来所持に主に意見や要望を聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議および朝礼で職員からの意見や提案を聞くようにしている。それらの意見を管理者の運営会議で報告を行っている。	会議は月1回開催し、管理者会議も月1回行っている。また、管理者と職員の個人面談は年4回実施しており、職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年に4回の自己評価を元に個々の実績を把握しており、資格習得などの補助金の支給、職員の誕生日のお祝いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回ほど法人で行う研修会を職員が受講し、研修を受けた職員は職員会議の中で研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は管理者連絡会を通し他事業所との連携に勤めている。認知症グループホーム協会へ加入し勉強会などに参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にご本人様やご家族様の不安を取り除くようかかわっている。入院されたときなど、看護師や管理者、職員はお見舞いに行き不安がないように関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際などご本人様やご家族様の安心できるように努めている。お話を聞く機会を作り関係性作りに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況を把握し、日常生活支援や成年後見人、オムツサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	和楽の元、入居者様と職員がともに家事を行ったり会話をできる状況作りを作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの通信や運営推進会議、行事の参加を促し、電話などで報告も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居したからといってホームの連携病院などに変更するのではなく、かかりつけ医の受診など行っている。	利用者の馴染みの場としての喫茶店や理容室、美容室など職員が同行して、個別による関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクの時間を設け入居者様同士、かわりを持てる時間を作っている。外出や散歩なども行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者への情報提供を行い、転居先で不安がないように、かかわっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様とかかわる時間を設けご本人様のお話の傾聴、ご本人様の思いを組んだプラン作りを心がけている。	ホームの買い物ついでに利用者におやつを選んでもらうなど、利用者との関わりの中で、本人の思いや意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様やご本人様とお会いし情報収集を行う。ケアまねからの情報提供や生活歴を理解し変わりのない生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議や申し送りなどで入居者様の状況を見極め都度支援方法を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当をつくり、担当職員を中心とし、介護計画を立てている。医師や看護師、からの意見聞きご家族様やご本人様の意見を一番に考え作成。	利用者毎に担当者制を敷いており、担当者が介護計画の原案を作り、医師や看護師の意見とアセスメントを踏まえ、ケア会議で職員全体にて検討して、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子を職員の間で共有。チェック表にチェックし、記録やケアプランなどすぐに閲覧できるようにしている。計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	鍼灸往診や通院、外出などそれぞれのニーズに合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、への参加。喫茶店や買い物外出を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前までのかかりつけ医への継続、受診希望はそのまま行っている。往診時紹介状などもらい、受診できるようにしている。	以前からのかかりつけ医も往診がある。協力医療機関は、月2回の訪問診療と週1回の看護師の訪問で24時間の医療支援体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が勤務。入居者様の健康管理医療機関との連携を行う。職員への助言など行い、特変時など24時間体制で連絡が取れる環境にある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時担当医看護師への情報提供を行っている。 入院中は職員、看護師が面会に行き、ご本人様の状況の把握をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事業所が重度化した場合における方針を説明している。来年度からは看取りを行うよう研修など行っている。	重度化や終末期については、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、再度打ち合わせして意向確認書を交わして、医療連携して対応する体制で、職員の外部研修も行っている。また、AEDも備え研修も行っている。	重度化や終末期については、職員を外部の研修会へ参加させるなど看取りの準備を進めているが、看取りの実務の研修やマニュアルなどを整備して、受け入れ態勢を整えることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを職員会議などで説明を行っている。応急手当など外部や内部研修を実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練、ビル全体の合同避難訓練避難訓練は地域の方も参加。そのほかに地震の訓練や日中帯の火災を設定訓練を行っている。	避難訓練は、備蓄や備品も整備し、地域の方の協力により、火災が2回、地震が2回、ビル全体の合同訓練も消防署の指導の下、年1回実施して災害対策を行っている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議、申し送り時のほか、常に職員間で言葉使いに注意を払っている。	人格の尊重やプライバシーの確保については、呼びかけ声掛けなど、接遇の研修会に職員が参加して、内部で伝達講習を行って学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	かかわり方に注意を払い、ご本人様が思いを伝えられるよう傾聴している。表情やしぐさなどにも注意を払い思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一日の流れはあるが、ご本人様の気持ちや体調に考慮し一人ひとりのペースを大切にし、外出など希望にそり対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でお洋服など選ばれる。訪問美容またはなじみの美容室、理容室に行くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りのお手伝いをしてくださったり、入居者様の希望のメニュー変更などしている。片付けも職員とともにやっている。	メニューと食材は外部委託だが、調理は職員が行っている。利用者も職員と一緒に食材の下ごしらえや配膳、食器洗いなど手伝っている。行事食や外食は、イタリアンレストランや出前寿司、ファミリーレストランなど楽しみな食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量や水分をすぐわかるようにチェック表を作り目に見えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを促したり、介助にて口腔ケアを行っている。歯科衛生士による口腔洗浄を月1回行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を決め、誘導したり声かけを行っている。排泄チェック表で確認できるようにしている。	利用者個々の排泄チェック表を基に職員間で共有して、一人ひとりの表情や仕草と時間を見ながら、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつでヨーグルトを提供。水分摂取していただく。体操や歩行訓練なども取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は週に2回行っている。体調を考慮し入浴できない場合、曜日を選び替えたりしている。	浴槽は個浴タイプで、週2回入浴している。また、入浴は定められた時間などはなく、利用者個々の状況に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様が安心して環境を作っている。個室で過ごされたいときは無理に声をかけず、居間で過ごされたいときは職員と談話などしている。夜は照明を落としゆっくりできる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしすぐに目を通すことができるにしている。薬の変更時は口頭のほか受診往診記録などにも記し、職員が共有できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあわせプランをたて役割を持っていただくよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は散歩や外出を行っている。買い物など入居者様が行きたいと話されたときにも随時対応している。外出レクリエーションも行い紅葉狩りや外食、グループ内でのお祭り行事にも行っている。	立地が市街地な為、近隣にスーパーやドラッグストア、ホームセンター、コンビニなどがあり、散歩や買い物など日常的に支援している。外出行事は、紅葉狩りや町内会運動会、グループ内の他のGHの行事に参加したり、駐車場で納涼祭りなど多彩な行事を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理されている方は、買い物などでご自身でお金を払われたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が申し出た場合電話をかけた、代筆も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分が狭いが、入居者様が心地よく過ごしていただけるよう、入居者様が作った作品を掲示したり季節感を感じるよう装飾に工夫をしている。	学生寮の転用型の為、共用空間は狭いが、利用者の作品などを掲示して、季節を感じる工夫をしている。利用者は、日中は殆どリビングで寛いだ雰囲気でも過ごしている。また、緊急時の非常階段もあり、避難には有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分が狭いため一人ひとりの空間はうまく作れていないかも知れませんが、入居者様同士が談笑したり、個々で好きなことができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた家具などを使用させていただき、ご本人様、家族の意向を大切に環境づくりをしている。	居室には、クローゼットと洗面台が設置され配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を張ったり、トイレやお風呂などわかりやすく表示している。手すりもつけ生活しやすい環境づくりを行っている。		